活動履歴と今後の予定

4/1　BSよしもと「チーキーズGOGO!」でシェアハウス放映
4/4　北浜住宅役員会
4/17　錦町東住宅役員会
4/26　第1回理事会
5/15　錦町東住宅総会
5/17　塩竈市被災者見守り・相談支援調整会議
5/19　立教大学コミュニティ福祉学部にてゲスト講義
5/22　あすと第3住宅みのり会総会
5/23　北浜住宅総会
6/9　田子西スマホサロン キックオフ
6/12　つなセン令和4年度総会
6/19　錦町東住宅一斉清掃・役員会
6/24　田子西スマホサロン　スタート!

Wi-Fi サロン
2ヶ所で開催中！

<つながりッキー@あすと第二>
開催日：毎週金曜13:30～17:00
場所：あすと長町第二市営住宅集会所（太白区長町6-5-13）
参加費：大人100円、高校生以下無料
主催：就労移行支援Rickyクルーズ、つなセン　協力：あすと第二市営住宅住民の会

<田子西スマホサロン>
開催日時：6月24日～9月23日までの第2・4金曜 14:30～16:30
※7月のみ第1・3金曜日に開催
場所：田子西住宅集会所（宮城野区田子西1-11）
プログラム：①ミニ講座②スマホ個別相談　参加費：無料
主催：田子西町内会、つなセン
協力：東北学院大学災害ボランティアステーション
東北大学課外・ボランティア活動支援センター

お気軽にご参加ください！

会員数
正会員 28（-2）　賛助会員 29（+2）
facebook いいね！数 578（+13）
2022年6月1日 現在（前号比）

入会のご案内／寄付のお願い

つなセンでは、あすと長町から始まり広がった復興コミュニティデザインの経験を、東日本大震災の被災地や熊本など他地域へ伝えるべく、活動しています。民間非営利の立場で、枠にとらわれずに機動的に活動を続けていくためには、皆様からの会費や寄付が大きな支えとなります。会員として、又は寄付を通じて、ぜひ応援をお願いいたします。賛助会費及び寄付金は寄付金控除の対象となります。会員申込みやご寄付は、ネットからもお手続きいただけます。　https://tsunacen.thebase.in/

継続的に応援するには
正会員又は賛助会員にご入会ください。
・正　会　員：年間6,000円・総会議決権あり
・賛助会員：年間3,000円・総会議決権なし

寄付のお振込先
＜口座名義＞特定非営利活動法人つながりデザインセンター
●郵便振替：02230－8－121908
●郵便振込：ゆうちょ銀行　二二九支店（ニニキュウ）　当座預金　0121908

会員団体のみなさま
一般社団法人入居サポートセンター・みやぎ　SD不動産　NPO法人 仙台傾聴の会　NPO都市住宅とまちづくり研究会
NPO法人東日本ネットワーク手にぎり隊　NPO法人 みやぎ「こうでねいと」
株式会社ミツイ　共立女子大学 高橋研究室　CASEまちづくり研究所　高齢者配食サービス「ほっと亭」　今野不動産株式会社
社会福祉法人ライフの学校　スタジオまめちょうだい　仙台白百合女子大学 佐々木研究室
仙台南健康友の会　つばさ薬局長町店　東北工業大学 新井研究室　東北工業大学 谷本研究室
東北学院大学 坂本研究室　都市建築設計集団/UAPP
長崎大学安武研究室　宮城厚生協会長町病院　有限会社栗駒建業

役員名簿

代　表：薄田 榮一
副代表：新井 信幸
理　事：加藤 渉
理　事：松原 久
理　事：マリ エリザベス
理　事：松村 翔子
理　事：宮本 愛
監　事：金沢 和樹
監　事：佐々木 裕子

編集後記

復興を振り返るとあの防潮堤は必要だったのだろうかと考えさせられます。私は復興予算をできるだけ被災者に直接配るべきと考えています。例えば各世帯に1千万円配られて、地域の防潮堤をつくるのに各世帯3百万円ずつ拠出する必要があるということだったら、防潮堤をつくろうということになるのだろうか。よりバランスのよい判断ができる合意形成の仕組みを考える必要があると思っています。〈新井〉

認定NPO法人
つながりデザインセンター
〒983-0841 仙台市宮城野区原町五丁目5番35号 熊谷ビル205
TEL　080－3205－5177
MAIL　asuto@tsuna-cen.com
WEB　www.tsuna-cen.com

GOOD DESIGN AWARD 2018

つなセン NEWS

TSUNAGARI Design Center

23
2022.06

仙台市内の公園での遊びの環境に関する実証実験（仙台市事業）で仮設置されたインクルーシブ遊具（2022年5月21日）

楽しみながら風土をつなぐ

地域の記憶を継承した交流拠点の創出
塩竈市・錦町東住宅会の定期総会
仙台市・あすと第三住宅の定期総会
あすと長町居住者・支援者連携協議会
【団体紹介】一般社団法人入居サポートセンター・みやぎ

活動報告

Main Topic

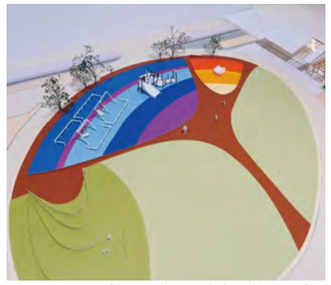
地域の記憶を継承した交流拠点の創出

▲かつての荒浜の軒先をイメージした建屋のデザイン案

1 子育ての光景を新たな形で再現

震災から11年が過ぎ、被災地でもいよいよ復興の二文字を目にする機会が少なくなってきました。それでも荒浜地区（仙台沿岸）では、元住民らの地域再生への取り組みが多数展開されていたり、民間企業等による移転跡地の利活用が少しずつ進んでいたり、住民・民間主導の復興まちづくりが進んでいます。そしてその一角（1.3ha）では、NEWS18号で紹介しました「インクルーシブな多世代交流拠点」の整備計画（事業主：今野不動産株式会社（つなセン会員））が進んでおり、私たちつなセンは参加のデザインを含む事業コーディネート、建築のデザイン監修などとして携わっています。

そこでは、かつての荒浜の民家の軒先でみられていたであろう子育ての光景を、多様な親子、多様な世代で空間や体験をシェアするかたちで、新たに再現しようとハード・ソフトの検討を進めています。ハード面ではインクルーシブ遊具のある広場とカフェ、レンタルスペースをつなぎ、内と外をつなぐ縁側のような機能の軒下デッキテラスを広く配置しているところが特徴です。また、荒浜の記憶の継承を目指して、震災後も変わらず遠方に見える蔵王の山並みや仙台の街の光、貞山堀や海の位置、そしてイナサの風や波の音、それらを自宅でくつろいでいたときと同じように感じられるよう、かつての集落と同じ向きに建屋を配置しています。



▲インクルーシブ遊具と広場のデザイン検討モデル

▲小上がりスペースのあるカフェの内観イメージ

2 インクルーシブへの道

インクルーシブ遊具においては、障がいのある子どもたちを支援する団体や彼らのママ・パパたちの意見をお聞きしながら設置計画を進めています。その中で「遊具に対象年齢を表示すると対象年齢より上の子どもが遠慮がちになる。いっしょに遊びたい子もいる」、「健常な子どもたちといっしょに遊ばせることに戸惑いがある」という意見をいただき、どのようにしたらインクルーシブの理念に近づくことができるのか日々模索を続けています。

3 荒浜の風土や文化をイベントで

同施設は来年5月以降のオープンを目指していますが、その間、インクルーシブな広場や施設への理解を広めるためのシンポジウムの開催（10月10日）や、ブックレットの制作などを予定しています。さらに、荒浜の風土や文化をモチーフに親子で楽しめるプレイベントも現地で開催を予定していて、「しゃぼん玉」を季節の風にのせて楽しんだり、かつてストーブの燃料にしていた松の落ち葉を集めて「焚き火」にして暖まるイベントを計画しています。

▲オープンに向けた荒浜の風土を活かしたイベント計画案

会員団体紹介 No.23

一般社団法人 入居サポートセンター・みやぎ

入居サポートセンター・みやぎは、「社会的自立は住まいの確保から」を念頭に、一人暮らしの高齢者やDV被害者、そして障がいを理由にアパートなどの賃貸ができないといった、住まいの確保が困難な方々に対し大家さんや不動産管理会社・関係機関の協力のもと、ライフサポーター（巡回スタッフ）による相談支援や見守りによる「福祉居宅」の提供を行っています。

つなセンが運営するシェアハウスにも、様々な理由で住まいの確保が困難な方からの相談をいただくことがあり、連携を取りながらご支援いただいています。最近、こうした相談が多くなっていて、入居サポートの必要性を実感しているところです。今後、さらに連携が広がり、ひとりでも多くの方が安心した住まいを見つけることができることを願っています。

〈場所〉仙台市青葉区一番町2丁目5番22号 GCあおば通りプラザ8階
〈TEL〉022-395-5298
〈URL〉https://www.nyukyo-scm.com/

Topics

塩竈市・錦町東住宅会の定期総会

5月15日（日）13時半より、錦町東住宅会の令和4年度定期総会が開催されました。つながりデザインセンターはこれ迄3年間の活動支援、1年間の自立に向けた伴走支援を行い、今回は自立後2年目を迎える総会となります。総会はコロナの影響もあり参加者を役員・班長に絞り、住民の皆様には事前に委任状を配布し、在住67世帯の中で45世帯から賛同を頂き、出席者11名を含め56世帯（84%）で総会が成立しました。今回の総会は議案書作成～司会進行の全てを住宅会が運営し、自立した活動が軌道に乗ってきたと感じています。

仙台市・あすと第三住宅の定期総会

5月22日（日）16時より、あすと第三住宅みのり会の令和4年度定期総会が開催されました。みのり会では令和3年度より共同代表制による住民組織運営が行われ、今回で2回目の総会となります。此方の総会もコロナの影響を考慮し参加者を役員・フロア長に絞り、住民の皆様には事前に委任状を配布し、在住66世帯の中で41世帯から賛同を頂き、出席者13名を含め54世帯（82%）で総会が成立しました。今回の総会では6名の役員の内、3名が新任に交代し新たなスタートを開始しました。

あすと長町居住者・支援者連携協議会

あすと第二、第三市営住宅では、各住民組織の代表と、両住宅に関わる活動団体・支援団体による「あすと長町居住者・支援者連携協議会」を、年2回程開催しています。2年前につなセンの呼びかけで始まり、これまで4回が開催されました。

会議では、活動団体からはそれぞれの活動について、住民の会からは入居者の状況や役員会の運営状況・課題などの報告があり、住宅全体の様子を把握したり、互いの動きを共有する貴重な機会となっています。

このような場は、共通する課題への取組みや相互連携が生まれる土壌として重要なものですが、一方で、内容がマンネリ化すると、参加する人の心が離れ、形骸化した会議の一つとなってしまう恐れもあります。

多様な活動が連携することの必要性は十分認識しつつも、具体的な形で継続していくことの難しさも感じています。参加する人たちにとって実り多く、かつ負担なく参加できる連携のあり方について、智恵を絞っていきたいと思います。